



## 哲学対話(てつがくたいわ)

今年度は「表現力・対話力を高める指導の在り方」について研究を進めています。

24日(月)宮崎県教育庁教育政策課より上水陽一指導主事においでいただき、哲学対話についての講義と演習をしていただきました。哲学対話と聞くとちょっと固そうなイメージですが、実際はそんなことはなく和気あいあいの雰囲気の中で進められました。

哲学対話にはいくつかのルールがあります。

- ① 何を言ってもいい。
- ② 人を否定したり茶化したりしない。
- ③ 発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- ④ お互いに問いかけるよう心がける。
- ⑤ 知識ではなく、自分の経験に基づいて話す。
- ⑥ 話がまとまらなくてもいい。
- ⑦ 問いや意見が変わってもいい。
- ⑧ 分からなくなってもいい。



このようなルールのもとで、グループごとに自分たちで問いを決めました。「出席番号は五十音順か生年月日順か」「学校はなぜ小・中・高と分かれているか」「宿題は必要か」「なぜ制服を着ないといけないのか」など、グループごとに多様な問いについて哲学対話をしました。

以下、感想です。短い時間でしたが皆さんいろいろと考えることがあったようです。

- ・自分の意見を言うのが苦手な私でも楽しく取り組めた。
- ・人によって問題のとらえ方が違うということが分かった。
- ・人間ってここまで深く考えたりするんだなと思った。
- ・自分の考えに間違いはないということ学びました。
- ・この授業を通して、色々なことに問いかけたりすることが大事なんだなと思いました。
- ・「考えることは自由です」という目標みたいに、授業中でもいっぱい考えていっぱい間違えてやって

いく方が得なのかなと思いました。

- ・あまり考えたことのないことを深く考えたりすると、それぞれの意見があつて、確かに考えると自由になれるなどと思いました。
- ・今回のような体験はあまりできないと思うし、すごく楽しいというか不思議な気持ちになったので面白いなどと思いました。
- ・普段話さない人たちと会話するのは難しかったけど、社会に出ればこういうことはたくさんあるので慣れておきたいです。考えることを大事に過ごしたいです。
- ・「沈黙」が非常に苦しかったです。考えることがとても大切なことが分かりました。素朴な疑問が難しいと思いました。

## 口は命の源という話

25日（火）歯科検診がありました。結果については後日お知らせします。

今年の重点目標に「歯科治療率アップ」があります。虫歯0は健康増進の出発点ですので、学校としても強力に押し進めていきたいと考えています。

小林市は中学生まで「子ども医療助成」によって月800円でむし歯治療ができます。裏を返せば中学校を卒業すると同時に治療費が格段に跳ね上がるというわけです。ご家庭でも話題にさせていただき、早めに治療されることをお勧めします。

口を清潔にすること、噛むことがいかに大切か。一昔前の実験ですが、1958年の九州大学医学部衛生学神田三郎先生の実験で、福岡県の小学4年生を無作為に120名選出し、家庭の協力を得て虫歯の治療・歯磨きの指導・定期的な検査、一口30回噛むことなど規則正しい生活を指導しました。

その結果、実験群の子たちの平均IQが3年後には120という極めて優秀な状態に変化しました。「噛む」「飲み込む」「息をする」行動は、脳幹の大事な機能で、それを使うことによって脳の発達が促されたといえます。

もう一つ大事なのが「線条体」。線条体は脳基底核の一部でやる気にかかわっているところ。やる気のない子は、噛まないから「線条体」が興奮しない。食べ物をよく噛むと、脳の中で「よし、勉強するぞ!」「頑張るぞ!」というやる気が出てきます。

プロ野球選手がガムを噛むのも、精神的な安定だけでなく、やる気を出すためと考えられるそうです。

（歯科河原英雄医院院長、医学博士 河原英雄氏）

